

Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール
ご使用にあたって



Part No: 821-3613-10
2010年11月、Revision A

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

| | |
|---|----|
| このマニュアルの使用方法 | 5 |
| 製品情報 Web サイト | 5 |
| 関連ドキュメント | 5 |
| このドキュメントについて (PDF と HTML) | 7 |
| ドキュメントのコメント | 8 |
| 寄稿者 | 8 |
| 変更履歴 | 8 |
| 『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールご使用にあたって』の概要 | 9 |
| システムソフトウェアリリース関連情報 | 11 |
| ファームウェアのリリース履歴 | 11 |
| サポートされているハードウェア | 12 |
| サポートされているオペレーティングシステム | 13 |
| Integrated Lights Out Manager (ILOM) | 14 |
| 追加ソフトウェア | 15 |
| ハードウェア、ファームウェア、および BIOS に関する注意事項 | 17 |
| ハードウェア、ファームウェア、および BIOS に関する最新の注意事項 | 17 |
| 管理および ILOM に関する注意事項 | 23 |
| 管理および ILOM に関する最新の注意事項 | 23 |
| Linux の注意事項 | 33 |
| Linux の最新の注意事項 | 33 |
| Oracle Solaris の注意事項 | 37 |
| Oracle Solaris の最新の注意事項 | 37 |
| Windows の注意事項 | 39 |
| Windows の最新の注意事項 | 39 |
| ドキュメントの注意事項 | 41 |
| ドキュメントの最新の注意事項 | 41 |

このマニュアルの使用方法

この節では、関連ドキュメント、フィードバックの送信、およびドキュメントの変更履歴について説明します。

- 5 ページの「製品情報 Web サイト」
- 5 ページの「関連ドキュメント」
- 7 ページの「このドキュメントについて (PDF と HTML)」
- 8 ページの「ドキュメントのコメント」
- 8 ページの「寄稿者」
- 8 ページの「変更履歴」

製品情報 Web サイト

Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールの情報については、<http://www.oracle.com/goto/blades> にアクセスし、ページの下部にある一覧で該当するサーバーモデルをクリックします。

このサイトには、次の情報やダウンロードへのリンクがあります。

- 製品情報および仕様
- ソフトウェアおよびファームウェアのダウンロード

関連ドキュメント

Oracle の Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールに関連するドキュメントの一覧を次に示します。これらのドキュメントおよびその他のサポートドキュメントは、次の Web サイトで入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.x6275m2#hic>

| ドキュメントグループ | マニュアル名 | 説明 |
|---|--|---|
| Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュールのド キュメント | Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュール製品のドキュメント | 検索と索引を含む、アスタリスク (*) の付いたすべてのドキュメントの統 合 HTML バージョン。 |
| | 『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュールご使用の手引き』 | 図によるセットアップのクイックリ ファレンス。 |
| | 『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュール設置マニュアル』* | サーバーを設置、ラック収納、およ び設定して初めて電源を入れるま での方法。 |
| | 『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュールご使用にあたって』* | サーバーに関する重要な最新情報。 |
| | 『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュール Oracle Solaris オペレーティ ングシステムインストールガイド』* | Oracle Solaris OS をサーバーにイン ストールする方法。 |
| | 『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュール Linux オペレーティングシ ステムインストールガイド』* | サポートされる Linux OS を サーバーにインストールする方法。 |
| | 『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュール Windows オペレーティ ングシステムインストールガイド』* | サポートされるバージョンの Microsoft Windows OS をサーバーに インストールする方法。 |
| | 『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュール Oracle VM オペレーティ ングシステムインストールガイド』* | サポートされるバージョンの Oracle VM OS をサーバーにインストールす る方法。 |
| | 『Oracle x86 サーバー診断ガイド』* | サーバーの問題を診断する方法。 |
| | 『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュールサービスマニュアル』* | サーバーの保守と維持管理を行う方 法。 |
| 『Sun Blade X6275 M2 Server Module Safety and Compliance Guide?』 | サーバーの安全性および適合性に関 する情報。 | |
| 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール』* | サーバーの Integrated Lights Out Manager のバージョン固有の補足情 報。 | |
| 保守ラベル | サーバーモジュールに表示される保 守ラベルのコピー。 | |
| Sun ディスク管理 のドキュメント | 『Sun x64 Server Disk Management Overview』 | サーバーの記憶域の管理に関する情 報。 |

| ドキュメントグループ | マニュアル名 | 説明 |
|--|--|--|
| x64 サーバーのアプリケーションとユーティリティのドキュメント | 『Sun x64 Server Utilities Reference Manual』 | サーバーにインストールされているユーティリティの使用方法。 |
| Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 ドキュメント | 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 機能更新およびリリースノート』 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 入門ガイド』 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 管理プロトコルリファレンスガイド』 | ILOM の新機能に関する情報。 ILOM 3.0 の概要。 ILOM 3.0 に関する概念情報。 Web インタフェースで ILOM を使用する方法。 コマンドで ILOM を使用する方法。 管理プロトコルに関する情報。 |

これらのドキュメントの一部については、前述の Web サイトで簡体字中国語、韓国語、日本語、フランス語、スペイン語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

このドキュメントについて (PDF と HTML)

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で利用できます。トピックに基づく形式 (オンラインヘルプと同様) で情報が表示されるため、章、付録、およびセクション番号は含まれません。

特定のトピック (ハードウェア設置やプロダクトノートなど) に関するすべての情報が含まれる PDF を生成するには、ページの左上にある PDF ボタンをクリックします。

注- 「ドキュメント情報」と「索引」のトピックには、関連する PDF はありません。

ドキュメントのコメント

製品ドキュメントの品質向上のため、お客様のご意見、ご要望をお受けしております。コメントを送信するには、ドキュメントサイト (<http://docs.sun.com>) の任意のページの右下にある「Feedback {+}」リンクをクリックします。

寄稿者

主な執筆者: Ralph Woodley、Michael Bechler、Ray Angelo、Mark McGothigan

寄稿者: Kenny Tung、Adam Ru、Isaac Yang、Stone Zhang、Susie Fang、Lyle Yang、Joan Xiong、Redarmy Fan、Barry Xiao、Evan Xuan、Neil Gu、Leigh Chen、Eric Kong、Kenus Lee

変更履歴

次の一覧はこのドキュメントセットのリリース履歴です。

- 2010年11月、初版発行。
- 2010年11月、Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールソフトウェアリリース 1.1. に関する情報を追加。新しいファームウェアバージョン PC-Check 6.27s のサポート (CR 6994690、6992284、6994464) を追加。

『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール ご使用にあたって』の概要

このドキュメントは、次の節で構成されています。

- 11 ページの「システムソフトウェアリリース関連情報」
- 17 ページの「ハードウェア、ファームウェア、および BIOS に関する注意事項」
- 23 ページの「管理および ILOM に関する注意事項」
- 33 ページの「Linux の注意事項」
- 37 ページの「Oracle Solaris の注意事項」
- 39 ページの「Windows の注意事項」
- 41 ページの「ドキュメントの注意事項」

システムソフトウェアリリース関連情報

この節では、Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールのシステムソフトウェアリリースの関連情報について説明します。

- 11 ページの「ファームウェアのリリース履歴」
- 12 ページの「サポートされているハードウェア」
- 13 ページの「サポートされているオペレーティングシステム」
- 14 ページの「Integrated Lights Out Manager (ILOM)」
- 15 ページの「追加ソフトウェア」

ファームウェアのリリース履歴

次の表に、サーバーモジュールノードファームウェアのリリースバージョンを示します。

注-最新のシステムソフトウェアリリースにアップグレードすることをお勧めします。これにより、システムでサポートされる最新のファームウェア、BIOS、およびドライバを入手することができます。ご使用のシステムの最新のソフトウェアリリースをダウンロードするには、<http://www.oracle.com/goto/blades> にアクセスし、ページ下部にある一覧で該当するサーバーモデルをクリックして、右側のダウンロードリンクをクリックします。

| システムソフトウェアリリース | ILOM SP ファーム ウェア | システム BIOS | CPLD | 10GbE ファーム ウェア | FMod ファーム ウェア | 必要な最小の CMM ファーム ウェア |
|----------------|------------------------|------------------------------------|------|-------------------|------------------|--|
| 1.1 | 3.0.10.12 (r59376) | 10.2.6.0 下記 の「注」を 参照。 | 18 | 2.7.8100_3.0 | D20R | 3.0.10.15 (シャーシソ フトウェア リリース 3.2 で利用可能) |
| 1.0 | 3.0.10.12 (r57416) | 10.2.4.0 | 18 | 2.7.8100_3.0 | D20R | 3.0.10.15 (シャーシソ フトウェア リリース 3.2 で利用可能) |

注 - デュアルポート Quad Data Rate (QDR) InfiniBand HCA PCIe EM カードを使用している場合は、20 ページの「BIOS 10.2.6.0 による PCIe リンクの減速 (6994690)」を参照してください。

サポートされているハードウェア

Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールは、次のシャーシハードウェア環境で使用できます。

注 - Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールでは、(サーバーモデルに応じて) NEM で 1GbE または 10GbE インタフェースを使用できますが、両方を使用することはできません。1GbE モデルでは、MellanoxCX-2 チップが搭載されていないため、10GbE インタフェースを備えていません。10GbE モデルでは、1GbE インタフェースを備えていない Sun Blade 6000 Ethernet Switched NEM 24p 10GbE の使用のみがサポートされているため、各サーバーノードの 1GbE インタフェースはファームウェアで無効になっています。

| サーバーモジュール | サポートされているシャーシ | サポートされている NEM |
|---|--|---|
| Sun Blade X6275 M2 GbE サーバーモジュール (p/n X6275M2-BB) | Sun Blade 6000 モジュラーシ テムシャーシ (A90-B) (PCIe 2.0 ミッドプレーン付き) (シャーシ ソフトウェアリリース 3.2 以上 でサポート) | 注 - 複数のインタフェースがあ る NEM では、1GbE インタ フェースのみがサーバーノード で使用されます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Sun Blade 6000 10 1GbE Pass-Thru NEM (X4250A-N) (推奨) ■ Sun Blade 6000 Virtualized Multi-Fabric 10GbE M2 NEM (X4338A) ■ Sun Blade 6000 Virtualized Multi-Fabric 10GbE NEM (X4238-N) ■ Sun Blade 6000 10GbE Multi-Fabric NEM (X4236A-N) ■ Sun Blade 6000 GbE Multi-Fabric NEM (X4212A-N) |

| サーバーモジュール | サポートされているシャーシ | サポートされている NEM |
|---|--|---|
| Sun Blade X6275 M2 10GbE サーバーモジュール (p/n X6275M2-CB) | Sun Blade 6000 モジュラーシ ステムシャーシ (A90-B) (PCIe 2.0 ミッドプレーン付き)(シャーシ ソフトウェアリリース 3.2 以上 でサポート) | Sun Blade 6000 Ethernet Switched NEM 24p 10GbE (X2073A-N) 注- この NEM では 10GbE イン タフェースのみをサポートして いるため、サーバーノードの 1GbE ポートはファームウェア で無効になっています。 |

注 - X6275 M2 サーバーモジュールでは、上記の NEM で提供される GbE Pass-Thru サポートのみを使用できます。

サポートされているオペレーティングシステム

次に、サーバーモジュールでサポートされているオペレーティングシステムの最小バージョンを示します。出荷時に行われたすべてのオペレーティングシステムに対するサポートテストは、オプションの 24GB FMod にインストールされた OS で実行しています。

注 - OS のサポートには、Tools and Drivers CD/DVD に収録されている必要なサーバー固有のドライバのインストールも含まれます。Oracle Web サイトから ISO イメージをダウンロードするには、<http://www.oracle.com/goto/blades> にアクセスし、ページの下部にある一覧で該当するサーバーモデルをクリックして、右側のダウンロードリンクをクリックします。

Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール (1GbE) (X6275M2-BB) の場合:

- Oracle Solaris 10 OS 10/09 (64 ビットのみ)。
- Oracle Linux 5.5 (64 ビットのみ)。
- Red Hat Enterprise Linux 5.5 (64 ビットのみ)。
- SUSE Linux Enterprise Server 10 SP3 (64 ビットのみ、Xen なし)。
- SUSE Linux Enterprise Server 11 SP1 (64 ビットのみ、Xen なし)。
- Microsoft Windows Server 2008 R2。
- Oracle VM 2.2.1。

Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール (10GbE) (X6275M2-CB) の場合:

- Oracle Linux 5.5 (64 ビットのみ)。10GbE のサポートには、サーバーの *Tools and Drivers* の ISO イメージまたは *Mellanox Web* サイトで入手できるサーバー固有のドライバが必要です。

- SUSE Linux Enterprise Server 10 SP3 (64 ビットのみ、Xen なし)。10GbE のサポートには、サーバーの *Tools and Drivers* の ISO イメージで入手できるサーバー固有のドライバが必要です。
- SUSE Linux Enterprise Server 11 SP1 (64 ビットのみ、Xen なし)。10GbE のサポートには、サーバーの *Tools and Drivers* の ISO イメージで入手できるサーバー固有のドライバが必要です。
- Microsoft Windows Server 2008 R2。
- Oracle VM 2.2.1。10GbE のサポートには、サーバーの *Tools and Drivers* の ISO イメージで入手できるサーバー固有のドライバが必要です。

注 - Red Hat Enterprise Linux 5.5 (64 ビットのみ) は、Mellanox ConnectX-2 ドライバ (バージョン 1.5.1.3) がインストールされた Sun Blade X6275 M2 の 10GbE モデルを使用して動作をテストしています。このドライバは、Oracle Tools and Drivers CD/DVD の ISO イメージと Mellanox Web サイトから入手可能であり、最初に RHEL OS をインストールした直後にインストールする必要があります。最新の RHEL OS のサポート状況については、Oracle Web サイトとこれらの『ご使用にあたって』を確認してください。

サポートされているオペレーティングシステムと仕様の最新の一覧については、<http://www.oracle.com/goto/blades> にアクセスし、ページの下部にある一覧で該当するサーバーモデルをクリックします。

Integrated Lights Out Manager (ILOM)

サーバーモジュールには、演算ノードごとにサービスプロセッサ (SP) があります。SP では、さまざまな Oracle サーバーモデルで IPMI 2.0 準拠のリモート管理機能が提供されます。各サーバーモジュールノードの SP 機能は次のとおりです。

次のインタフェースによる ILOM へのネットワークアクセス。

- サーバーモジュールノードのサービスプロセッサ (SP) またはシャーシ監視モジュール (CMM) を使用した Integrated Lights Out Manager (ILOM)
- シリアル接続を使用したローカルの ILOM コマンド行アクセス
- ミッドプレーンへの 10/100 管理 Ethernet ポート
- IP 経由のリモートのキーボード、ビデオ、マウス、およびストレージ (KVMs)

ILOM については、次のドキュメントを参照してください。

- ILOM 3.0 の各種マニュアル:<http://docs.sun.com/app/docs/coll/ilom3.0>
- 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール』:<http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.x6275m2#hic>.
- 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) CMM 管理ガイド - Sun Blade 6000/Sun Blade 6048 モジュラーシステム』:<http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.6000mod-blade6000ilom#hic>

追加ソフトウェア

次の追加ソフトウェアをサーバーで使用できます。これらのソフトウェアは Oracle Web サイトからダウンロードできます。

- Tools and Drivers CD/DVD (ISO イメージとして Web で入手可能)。サーバーに必要なすべてのソフトウェアが含まれています。
 - サポートされているすべてのオペレーティングシステム用のサーバー固有のドライバ。
 - サーバー固有のファームウェア (BIOS/ILOM、FMod、Mellanox ConnectX-2 10G HCA)。
 - IPMItool。IPMI が有効なデバイスを管理するために役に立つ、単純なコマンド行インタフェースです。ILOM を補完するものとして使用できます。
 - SNMP MIB。SNMP をサポートする管理ソフトウェアとともに使用します。
 - PC-Check (バージョン 6.27s)。ILOM の「Remote Control」の「Diagnostics」を介して利用できるシステム診断ユーティリティです。単独で実行することもできます。
- Oracle Validation Test Suite (「SunVTS」とも呼ばれる) Bootable Diagnostic、バージョン 7.0ps8。

ハードウェア、ファームウェア、および BIOS に関する注意事項

この節の次の各トピックで、Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールに適用される、ハードウェア、ファームウェア、および BIOS に関する注意事項について説明します。

[17 ページの「ハードウェア、ファームウェア、および BIOS に関する最新の注意事項」](#)

ハードウェア、ファームウェア、および **BIOS** に関する最新の注意事項

次の表は、この節で取り扱う注意事項の一覧です。注意事項の詳細を確認するには、注意事項のタイトルをクリックします。

| 最新の注意事項 | 対処方法 |
|---|------|
| 17 ページの「FMod が取り付けられているサーバーモジュールの管理および操作」 | あり |
| 18 ページの「Sun Blade 6000 モジュラーシステムシャーシのセットアップおよび電源投入に関する推奨事項」 | あり |
| 20 ページの「BIOS 10.2.6.0 による PCIe リンクの減速 (6994690)」 | なし |
| 21 ページの「PC-Check 6.27s で、Mellanox 10GbE チップが認識されない (6992284)」 | なし |

FMod が取り付けられているサーバーモジュールの管理および操作

FMod (フラッシュモジュール) が取り付けられているサーバーモジュールを操作する場合には、特別な注意を払う必要があります。次のルールに従う必要があります。

1. シャーシからブレードを取り外す場合、またはシェルフの電源を切断する場合、サーバーモジュールの AC 電源を再投入してから、ブレードを再挿入するまで、またはシェルフの電源を投入するまで、20 秒間待機する必要があります。FMod の隣にあるマザーボード上の緑色の LED が点灯しなくなることを確認します。これには約 20 秒かかります。



注意 - 緑色の LED が点灯している間に FMod を取り付けると、FMod が損傷する可能性があります、FMod がホストノードで認識されなくなる可能性があります。

2. サーバーモジュールをはじめてシャーシに挿入したときには、引き抜いたり、シェルフの電源を切断したりする前に、2 分間待機します。これは、スーパーキャパシタを充電するのに必要な時間です。シェルフまたはブレードの電源をしばらくの間切断する場合にも、同じ操作を適用します。サーバーモジュールをシャーシに挿入してから引き抜くまでには、2 分以上待機する必要があります。
3. FMod が壊れた場合は、Oracle が提供しているユーティリティを使用して、低レベルのフォーマットを実行します。フォーマットが完了したら、ブレードの電源を切断し、ILOM の制限付きシェルで `fmod_power_cycle` コマンドを実行する必要があります。

注 - この手順は、Oracle Service 要員しか実行できません。

Sun Blade 6000 モジュラーシステムシャーシの セットアップおよび電源投入に関する推奨事項

Sun Blade 6000 モジュラーシステムシャーシに Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールが取り付けられている場合に推奨されるセットアップおよび電源投入の方法は、最初の状態が空のシステムシャーシか、または事前設定されたシステムシャーシかによって異なります。

次のいずれかの状況に応じた、推奨される取り付け手順に従ってください。

- セットアップおよび電源投入に関する推奨事項(システムシャーシが空の場合)
- セットアップおよび電源投入に関する推奨事項(システムシャーシが事前設定されている場合)

▼ セットアップおよび電源投入に関する推奨事項(システムシャーシが空の場合)

- 1 サーバーブレードを取り付ける前に、シャーシコンポーネント(電源装置、ファン、NEM、EMなど)がすべて取り付けられていることを確認します。
- 2 シャーシに必要な I/O ケーブル(Ethernet など)を接続します。
- 3 ブレード 0 を取り付け、完全に装着します。
- 4 すべての AC 電源ケーブルを、システムシャーシの電源インタフェースモジュールから電源に接続します。
電源装置に電力が供給されると、シャーシ内のすべてのブレードの主電源がシャーシによって自動的に投入されます。すべての電源 LED が点灯していることを確認します。
- 5 DHCP/静的アドレスを使用して CMM IP アドレスを設定します。
- 6 CMM ネットワークの確認、およびブレード SP ネットワークのチェック/セットアップを行います。
- 7 ほかのブレードを取り付けます。各ブレードの挿入間隔は 30 秒とします。
たとえば、ブレード 0 の電源が投入された後、30 秒待機します。次に、ブレード 1 を取り付け、完全に装着し、電源が投入されるのを 30 秒待機します。
さらに、ブレード 2 を取り付け、完全に装着し、電源が投入されるのを 30 秒待機します。すべてのブレードを取り付けるまで、このプロセスを繰り返します。
- 8 ブレードまたはシャーシコンポーネント(CMM、PSU、ブレードなど)で、オレンジ色の障害 LED が点灯していないことを確認します。
障害 LED が点灯している場合は、『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールサービスマニュアル』に記載されているトラブルシューティング手順に従ってください。また、既知の問題については、『ご使用にあたって』を参照してください。

▼ セットアップおよび電源投入に関する推奨事項(システムシャーシが事前設定されている場合)

- 1 シャーシに必要な I/O ケーブル(Ethernet など)を接続します。

- 2 すべての AC 電源ケーブルを、システムシャーシの電源インタフェースモジュールから電源に接続します。

電源装置に電力が供給されると、シャーシ内のすべてのモジュールの主電源がシャーシによって自動的に投入されます。すべての電源 LED が点灯していることを確認します。

- 3 CMM が起動するのを 5 分待機します。その後、CMM ネットワークの確認/セットアップを行います。

- 4 CMM CLI にログインし、ブレード SP ネットワークのチェック/セットアップを行い、MAC アドレスを確認します。さらに、CMM CLI プロンプトで show コマンドを入力して、各ノードの SP の IP アドレスを収集します。例:

-> **show /CH/BL0/NODEX/SP/network**

Xには、サーバーモジュールノード (0 または 1) を指定します。

ノードでネットワーク情報が表示されない場合は、ブレードを装着し直して 5 分待機してから、再度 SP ネットワーク情報をチェックします。

- 5 ブレードまたはシャーシコンポーネント (CMM、PSU、ブレードなど) で、オレンジ色の障害 LED が点灯していないことを確認します。また、ブレードが正常に動作していることを確認します。

- 障害 LED が点灯している場合は、システムの『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールサービスマニュアル』に記載されているトラブルシューティング手順に従ってください。また、既知の問題については、対応する『ご使用にあたって』を参照してください。
- ブレードサーバーの緑色の OK LED が点滅している場合、または点灯していない場合は、ブレードの電源ボタンを押して、電源が投入されるかどうか確認してください。電源投入処理には、1-2 分かかる場合があります。また、各ノードの ILOM CLI にログインし、CLI プロンプトで次のコマンドを入力して、ホストを起動することもできます。

-> **start /SYS**

ホストが起動しない場合は、ブレードを装着し直します。

BIOS 10.2.6.0 による PCIe リンクの減速 (6994690)

Sun Blade X6275/X6275 M2 サーバーモジュールで BIOS のバージョン 10.2.6.0 が実行されている場合、PCIe EM のバス速度が PCIe Gen1 に減速されます。この問題が影響するのは、デュアルポート Quad Data Rate (QDR) InfiniBand HCA の PCIe EM カードだけです。その他のサポート対象の PCIe EM カードは、これよりも低速で動作するため、影響を受けません。

この問題の回避方法は、今のところありません。BIOS のバージョンが 10.2.6.0 未満の Sun Blade X6275 または X6275 M2 サーバーモジュールで、デュアルポート Quad Data Rate (QDR) InfiniBand HCA の PCIe EM カードを使用している場合は、修正が利用可能になるまで、サーバーの BIOS のバージョンを 10.2.6.0 以降にアップグレードしないでください。

PC-Check 6.27s で、Mellanox 10GbE チップが認識されない (6992284)

10GbE を使用した Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールで PC-Check を実行する場合、詳細診断ネットワークテストで Mellanox 10GbE チップを認識できないため、ネットワークテストを実行できません。

これは PC-Check ソフトウェアの問題であるため、今のところ回避方法がありません。サポート対象の OS 環境では、10GbE インタフェースは正常に機能します。

管理および ILOM に関する注意事項

この節では、Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールに適用される、サーバー管理および ILOM サービスプロセッサ (SP) に関する注意事項について説明します。

23 ページの「管理および ILOM に関する最新の注意事項」

管理および ILOM に関する最新の注意事項

次の表は、この節で取り扱う注意事項の一覧です。注意事項の詳細を確認するには、注意事項のタイトルをクリックします。

| 最新の注意事項 | 対処方法 |
|---|------|
| 24 ページの「ILOM Web インタフェースでの電力値の制限」 | あり |
| 25 ページの「CMM でのサーバー消費電力の読み取り」 | あり |
| 25 ページの「CMM がオフラインの場合にサーバーがブートしない」 | なし |
| 25 ページの「位置特定 LED は 30 分間点灯したままになるようプログラムされている (6793865)」 | あり |
| 26 ページの「SP ILOM Web インタフェースの使用時に生成されるエラーメッセージを共有するポートを設定する (6895495)」 | あり |
| 26 ページの「ファームウェアのアップグレード中には、緑色の LED がゆっくり点滅 (1 Hz) するはずである (6862377)」 | なし |
| 27 ページの「file-upload コマンドに対する予期しない応答により、USB インタフェースを介した IPMIflash が失敗する (6856369)」 | なし |
| 27 ページの「パスフレーズを入力せずに設定のバックアップを実行しても、警告メッセージが表示されない (6859295)」 | なし |
| 27 ページの「CMM のリポート後、シャーシのホットインサートイベントが誤って記録される (6797938)」 | あり |
| 28 ページの「システム BIOS で設定したシリアルボーレートがサービスプロセッサに伝播されない (6784341)」 | あり |

| 最新の注意事項 | 対処方法 |
|---|------|
| 28 ページの「複数の CLI セッションが開いていると、CMMILOM が応答しなくなる (6780171)」 | あり |
| 28 ページの「CMMILOM インタフェースを繰り返し使用すると、応答しなくなる (6798257)」 | あり |
| 29 ページの「start /SYS コマンドによるブレードの電源投入に関する注意事項 (6784708)」 | あり |
| 29 ページの「正しくない ipmiflash -I pci コマンドを発行すると、SP ネットワーク接続が失われる (6850823)」 | なし |
| 30 ページの「ブレードのバッチの電源を投入すると、ノードの電源を投入できなくなる場合がある (6813202)」 | あり |
| 30 ページの「SP のリポート後にホストの電源が投入されると、ソフト上限による電力制限が機能しなくなる (6890841)」 | あり |
| 31 ページの「PCIe EM のネイティブなホットプラグが機能しない (6804272)」 | あり |

ILOMWeb インタフェースでの電力値の制限

「Power Management」->「Allocation」->「Power Allocation Plan」の「Target Limit」の値は、ワット単位またはパーセントで指定できます。指定できる範囲は次のとおりです。

- 138 W (「Installed Hardware Minimum」の電力値)-
- 295 W (「Allocated Power」の電力値)

注- 「Installed Hardware Minimum」の電力値は、設定可能な最小電力の推奨値で、参照値として扱う必要があります。

この最小値で電力を制限すると、次の2つの問題が発生します。

- CPU のパフォーマンスが大幅に低下する。
- CLI および ILOM SEL のログ (下記を参照) に、「電力値の違反」が記録される場合がある。この原因は、最小電力値の計算にあります。この計算を完璧に行うことは困難であり、コンポーネントや各種の使用パターンごとに計算の精度を考慮する必要があります。しかし、使用パターンによってシステムの電力を「Installed Hardware Minimum」の電力値以下にすることはできないため、違反状態が発生します。

ILOMWeb インタフェースの「Power Management」の「Consumption」タブには、「Target Limit」に関する次の警告が表示される場合があります。

- ハード上限の場合: Warning: /Peak Permitted/ exceeds /Target Limit/
- ソフト上限の場合: Warning: /Actual Power/ exceeds /Target Limit/

ILOM CLI では、イベントが次のように記録されます。

```
/SP/powermgmt/budget
Properties:
  activation_state = enabled
  status = violation
```

ILOM SEL では、IPMI ログが次のように記録されます。

```
ID = 10e2 : 10/27/2009 : 14:28:56 : Power Supply : PWRBS :
State Asserted
```

対処方法

この問題を回避するには、この最小値で電力を制限しないようにします。

CMM でのサーバー消費電力の読み取り

シャーシ管理モジュール (Chassis Monitoring Module、CMM) の ILOM インタフェースでは、ブレード単位の電力割当量が表示されます。Sun Blade X6275 M2 では、ブレード (両方のノード) の合計消費電力が表示されます。

CMM がオフラインの場合にサーバーがブートしない

シャーシの CMM がオフラインの場合 (CMM に問題が発生した場合、CMM がブートプロセス中の場合など)、Sun Blade X6275 M2 の電源は投入されません。

対処方法

1. Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールをブートする前に、CMM がオンラインになっていることを確認します。
2. ブレードの電源を投入するには、start -force を実行します。

位置特定 LED は 30 分間点灯したままになるようプログラムされている (6793865)

IPMI 仕様によると、ブレードの前面にある位置特定 LED は、15 秒後に消灯されることになっています。しかし、Oracle は、15 秒ではシステムの物理的な位置を特定できない場合があると判断しました。このため、Oracle は、IPMI 仕様を無視して、デフォルトのタイムアウト値を 30 分に設定することにしました。

対処方法

位置特定 LED は、次のいずれかの方法を使用して、いつでも消灯することができます。

- ブレードの位置特定ボタンを押して、手動で消灯する。
- ILOM Web インタフェースまたは CLI を使用する。
- IPMItool の `chassis identify` コマンドを使用して、タイムアウト値を 0 に設定する。

位置特定 LED が自動的に消灯するまでには 30 分かかります。

SP ILOM Web インタフェースの使用時に生成されるエラーメッセージを共有するポートを設定する (6895495)

次の条件では、エラーメッセージが表示される場合があります。

1. Microsoft Internet Explorer 8 ブラウザで、ノード SP にログインします。
2. 「Configuration」の「Serial Port Settings」に移動します。
3. 「Serial Port Settings」を「Service Processor」から「Host Server」に変更し、「Save」ボタンをクリックします。次のメッセージを含むエラーメッセージウィンドウが表示されます。

Error: Unable to get serial port property

4. 「OK」ボタンをクリックすると、「Host Serial Port」のボーレートフィールドが空白になります (Internet Explorer では、ボーレートのみが空白になる)。このエラーメッセージは、Firefox と Internet Explorer の両方で表示されます。

対処方法

このエラーメッセージは、SP ILOM CLI でポート共有が使用されている場合には表示されません。

ファームウェアのアップグレード中には、緑色の LED がゆっくり点滅 (1 Hz) するはずである (6862377)

システム BIOS または SP ファームウェアのアップグレード中には、緑色の LED がゆっくり点滅 (1 Hz) するはずですが (0.5 秒間点灯、0.5 秒間消灯を繰り返す)。

しかし、現在の ILOM のコードは、緑色の LED の状態を変化させません。常時点灯の場合、アップグレード中は点灯されたままになります。

file-upload コマンドに対する予期しない応答により、USB インタフェースを介した IPMiflash が失敗する (6856369)

サービスプロセッサ (SP) のファームウェアをフラッシュする際に、USB インタフェースを介した IPMiflash を使用して `-I usb` パラメータを指定すると、ファイル転送が停止し、SP のフラッシュが失敗します。そのため、次のコマンドは失敗します。

```
# ipmiflash -I usb -U root write SP_FirmwareFile.pkg
```

```
351K [sending...]unexpected response to our file-upload command  
(ccode = 0x0c)
```

IPMiflash の Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールでの使用は、現在サポートされていません。サポートされるようになった場合、このプロダクトノートは更新されます。

パスフレーズを入力せずに設定のバックアップを実行しても、警告メッセージが表示されない (6859295)

パスフレーズを入力せずに ILOM 設定のバックアップを実行しても、機密データがバックアップされないことを示す警告メッセージは表示されません。パスワード、SSH キー、証明書などの機密情報をバックアップするにはパスフレーズが必要ですが、バックアップはただちに実行されます。

パスフレーズを入力せずに設定のバックアップを復元しても、パスフレーズの入力を求めるメッセージは表示されません。復元はただちに行われます。

CMM のリブート後、シャーシのホットインサートイベントが誤って記録される (6797938)

CMM のリブート後、シャーシからブレードを取り外していないにもかかわらず、サーバーモジュールのホットインサートイベントが CMM イベントログに誤って記録されることがあります。

このイベントは無視してかまいません。

システム BIOS で設定したシリアルポートがサービスプロセッサに伝播されない (6784341)

システムのシリアルポートポートをシステム BIOS で 9600 - 115200 の範囲で設定すると、この新しい設定が保存されますが、システムのサービスプロセッサには伝播されません。

対処方法

SP ILOM Web インタフェースの「Configuration」の「Serial Port」で、サービスプロセッサのシリアルポートポートを変更します。

複数の CLI セッションが開いていると、CMM ILOM が応答しなくなる (6780171)

Web インタフェースを使用して CMM ILOM イメージをアップグレードしているときに、ILOM CLI セッションが 5 つ以上開いていると、CMM でメモリー不足が発生し、CMM が応答しなくなったり、リセットされたりする場合があります。

対処方法

CMM ILOM Web インタフェースを使用してファームウェアをアップグレードしている間は、ILOM CLI セッションを 5 つ以上起動しないでください。また、使用していない ILOM CLI セッションは閉じてください。

CMM ILOM インタフェースを繰り返し使用すると、応答しなくなる (6798257)

センサーやコンポーネントを監視するために ILOM を繰り返し使用すると、ILOM ソフトウェア内でメモリーリークが発生して、ILOM の動作が遅くなったり、不安定になったりする場合があります。また、ILOM が応答しなくなる場合もあります。

対処方法

動作が遅くなったデバイス、動作が不安定になったデバイス、応答しなくなったデバイスなどに応じて、サーバーモジュールのサービスプロセッサまたはシャーシ CMM をリセットします。

start /SYS コマンドによるブレードの電源投入に関する注意事項 (6784708)

ILOM の start /SYS コマンドを発行してホストの電源を投入する場合、次のメッセージが表示され、失敗することがあります。

```
start: Insufficient power available for this operation: The chassis
Available Power must exceed the chassis Ticketed Power by greater than the
power budget requirement of this blade (see power ticket denied message in
the CMM event log)
```

上記のメッセージは、ホストシステムの電源投入が失敗したことに対する正しい理由を正確に説明していない場合があります。使用できる電力が不足していることは考えられる原因の1つですが、ほかの要因(ハードウェアの誤動作、同じブレードのピアノードでのシステム障害、シャーシ CMM の障害など)が原因で同様のエラーが発生することもあります。

このエラーが発生した場合、次の操作を実行すると、問題の原因を特定するのに役立ちます。

- 同じブレードのピアノードの状態をチェックする。
- シャーシ CMM の状態をチェックする。
- 関連する可能性がある問題について、システムイベントログを調べる。
- シャーシレベルで十分な電力を使用できることを確認する。

正しくない ipmiflash -I pci コマンドを発行すると、SP ネットワーク接続が失われる (6850823)

ipmiflash -I pci を実行する場合の正しいコマンドは次のとおりです。

```
ipmiflash -I pci write ILOM.pkg :: --platform-type vayu_QDR_IB --id-num 38 -l
0xa0000
```

注- このコマンドでは、コロンを2つ(「::」)使用する必要があります。

IPMIflash の Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールでの使用は、現在サポートされていません。サポートされるようになった場合、このプロダクトノートは更新されます。

ブレードのバッチの電源を投入すると、ノードの電源を投入できなくなる場合がある (6813202)

ipmitool または /start/ SYS を使用して電源投入コマンドを個別に発行することでブレードノードのバッチの電源を再投入する場合、またはブレードでラックがいっぱいになった Sun Blade 6048 モジュラーシステムシャーシの電源を投入する場合、ノードの電源を投入できないことがまれにあります。電源の投入に失敗したノードは、IPMI の電源状態クエリーが作成されると、OFF ステータスを返します。

対処方法

この問題が発生した場合は、次の操作を実行してみてください。

- ノードのサービスプロセッサにログインして、そのサービスプロセッサをリセットする。
- 上記の操作で問題が解決しない場合は、シャーシ内のブレードをいったん取り外してから、再度挿入する。

SP のリブート後にホストの電源が投入されると、ソフト上限による電力制限が機能しなくなる (6890841)

ノードの電源管理ポリシーがソフト上限を使用してシステムの電力を制限するように設定されている場合、次の条件が満たされていても、ソフト上限の設定は順守されません。

- ポリシーで指定されている、実際の電力目標の上限の時間制限が 0 ではない。
- ホストの電源が切断されると、それに続いてノード SP がリブートする。
- SP のブート後に、ホストの電源が再投入される。

上記のすべてが満たされている場合にホストの電源が再投入されても、設定されている電力制限はシステムで順守されません。

対処方法

SP がブートして、ホストの電源が投入されたら、次のいずれかを実行します。

- ILOM Web インタフェースの場合:
 1. ノードの「Power Management」の「Limit」タブで、設定をメモします。
 2. 電力の制限に関するオプションを無効にします。
 3. 「Save (保存)」をクリックします。
 4. 電力の制限に関するオプションを再度有効にして、メモしておいた設定を入力します。

5. 「Save(保存)」をクリックします。

注-この操作は、SPをリセットして、ホストの電源を投入するたびに実行する必要があります。

- ILOM CLI の場合:
 1. 割当量の有効化状態を無効にします。
 2. 割当量の有効化状態を再度有効にします。

注-この操作は、SPをリセットして、ホストの電源を投入するたびに実行する必要があります。

PCIe EMのネイティブなホットプラグが機能しない(6804272)

PCIe ExpressModuleのホットプラグ(システムが稼動している間の挿入)を行うと、PCIe EMで問題が生じる場合があります。また、PCIe EMがシステムで正しく認識されない場合もあります。

対処方法

PCIe EMのホットプラグは行わないでください。また、PCIe EMを取り付ける前に、システムの電源が切断されていることを確認してください。

Linux の注意事項

この節では、サポート対象の Linux オペレーティングシステムプラットフォームおよび Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールに関する注意事項について説明します。Linux オペレーティングシステムプラットフォームには、Oracle Linux (OL)、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES) などがあります。

33 ページの「Linux の最新の注意事項」

Linux の最新の注意事項

次の表は、この節で取り扱う注意事項の一覧です。注意事項の詳細を確認するには、注意事項のタイトルをクリックします。

| 最新の注意事項 | 対処方法 |
|--|------|
| 34 ページの「システムを起動する前に「Power Management」の「Power Limit」のハード上限を設定しても、システム電源の制御が行われない」 | あり |
| 34 ページの「OL/RHEL のエラーメッセージ: PCI: BIOS Bug MCFG area at e0000000 is not E820-reserved」 | あり |
| 34 ページの「OL/RHEL のサウンドサーバーの情報メッセージ: Error while initializing the sound driver」 | あり |
| 35 ページの「SLES: 追加したソフトウェアドライバが機能しない場合がある」 | あり |
| 36 ページの「SLES のエラーメッセージ: Hotpluggable processor device is not present」 | あり |
| 36 ページの「SLES: 10GbE ドライバが起動中に自動的にロードしない (6994464)」 | あり |

システムを起動する前に「Power Management」の「Power Limit」のハード上限を設定しても、システム電源の制御が行われない

Oracle Linux 5.5、RHEL 5.5、または SLES 11 で、システムを起動する前に、`timelimit=0` (なし) に設定し、電力の制限値を設定しても、その制限値がシステムで順守されません。

対処方法

OS の起動後に、次の操作を実行します。

1. 割当量の有効化状態を無効にします。
2. 割当量の有効化状態を再度有効にします。

注- この操作は、OS の起動後に毎回実行する必要があります。

OL/RHEL のエラーメッセージ: PCI: BIOS Bug MCFG area at e0000000 is not E820-reserved

Oracle Linux 5.5 および RHEL 5.5 の Xen カーネル内の問題により、メモリーの特定の範囲の予約に関するこの誤ったエラーメッセージが起動中に表示される場合があります。

このメッセージは無視してかまいません。詳細は、Red Hat のナレッジベース記事 (<http://kbase.redhat.com/faq/docs/DOC-15977>) を参照してください。

OL/RHEL のサウンドサーバーの情報メッセージ: Error while initializing the sound driver

Linux の KDE Konqueror ブラウザを使用しているときに、次のメッセージが表示されます。

```
Sound server message: "Error while initializing the sound driver: /device /dev/dsp can't be opened (No such file or directory).
```

サウンドサーバーは、`null` 出力デバイスを使用して続行されます。

KDE は、常にサウンドカードが使用可能かどうかをチェックしています。Sun blade X6275 M2 にサウンドカードが搭載されていない場合、このエラーが表示されます。

対処方法

次のいずれかの操作を実行すると、このエラーが表示されないようにすることができます。

- 「Do not show this message again (今後、このメッセージを表示しない)」チェックボックスをオンにします。
- 「KDE Control Center (KDE コントロールセンター)」->「Sound & Multimedia (サウンド & マルチメディア)」->「Sound System (サウンドシステム)」の順に移動して、「Enable the sound system (サウンドシステムを有効にする)」チェックボックスをオフにします。

このメッセージは情報を表すもので、パフォーマンスには影響しません。

SLES: 追加したソフトウェアドライバが機能しない場合がある

SLES 11 では、サポートされていないドライバをロードしようとする、エラーが生成され、コンポーネントが起動しなくなります。また、コンポーネントがロードを行わなくなります。たとえば、InfiniBand の PCIe EM が取り付けられている場合に、`openibd`、`opensmd`、および HCA ドライバをロードしようとする、サポートされていないドライバとして SLES によってフラグが付けられ、ドライバがロードされなくなる可能性があります。

```
#/etc/init.d/opensmd start
OpenSM not installed
#/etc/init.d/openibd start
Loading eHCA driver: [FAILED]
Loading HCA driver and Access Layer: [FAILED]
```

サポート対象のすべての Linux カーネルモジュールには、内部の「サポート対象」フラグがあります。このフラグにより、Novell で公式にサポートされているモジュールであることが示されます。SLES 11 以降では、このフラグがないモジュールは自動的にロードされません。また、手動で `modprobe` コマンドを実行してもロードされません。これが SLES 11 サーバーのデフォルトの設定です。ただし、設定を変更すると、サポートされていないモジュールをロードできるようになります。

対処方法

SLES 11 で、サポートされていないモジュールをロードできるようにするには、`etc/modprobe.d/unsupported-modules` の `allow_unsupported_modules 1` を設定します。

この変更を行うと、「サポート対象」フラグがないモジュールをロードできるようになります。

SLES 11 の新しいモジュールプロブのルールの詳細は、Novell のナレッジベース (<http://www.novell.com/support/search.do>) で、ドキュメント ID: 7002793 を検索してください。

SLES のエラーメッセージ: Hotpluggable processor device is not present

エラーメッセージ「Hotpluggable processor device is not present」が表示される場合があります。

このメッセージは情報を表すもので、パフォーマンスには影響しません。

SLES: 10GbE ドライバが起動中に自動的にロードしない (6994464)

ドライバの初期インストール後、10GbE ドライバは正しく機能します。ただし、サーバーの再起動後、ドライバがロードを行わなくなります。この問題は、SLES 10 SP3 と SLES 11 SP1 の両方で発生します。

対処方法

この問題が発生した場合、ドライバを手動でロードして、再設定する必要があります。

Oracle Solaris の注意事項

この節では、サポート対象の Oracle Solaris オペレーティングシステムプラットフォームおよび Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールに関する注意事項について説明します。

[37 ページの「Oracle Solaris の最新の注意事項」](#)

Oracle Solaris の最新の注意事項

次の表は、この節で取り扱う注意事項の一覧です。注意事項の詳細を確認するには、注意事項のタイトルをクリックします。

| 最新の注意事項 | 対処方法 |
|--|------|
| 37 ページの「システムを起動する前に「Power Management」の「Power Limit」のハード上限を設定しても、システム電源の制御が行われない」 | あり |

システムを起動する前に「Power Management」の「Power Limit」のハード上限を設定しても、システム電源の制御が行われない

Solaris で、システムを起動する前に、`timelimit=0` (なし) に設定し、電力の制限値を設定しても、その制限値がシステムで順守されません。

対処方法

OS の起動後に、次の操作を実行します。

1. 割当量の有効化状態を無効にします。
2. 割当量の有効化状態を再度有効にします。

システムを起動する前に「Power Management」の「Power Limit」のハード上限を設定しても、システム電源の制御が行われない

注 - この操作は、OS の起動後に毎回実行する必要があります。

Windows の注意事項

この節では、サポート対象の Microsoft Windows オペレーティングシステムプラットフォームおよび Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールに関する注意事項について説明します。

[39 ページの「Windows の最新の注意事項」](#)

Windows の最新の注意事項

次の表は、この節で取り扱う注意事項の一覧です。注意事項の詳細を確認するには、注意事項のタイトルをクリックします。

| 最新の注意事項 | 対処方法 |
|--|------|
| 39 ページの「Windows Server 2008 で Sun Quad Gigabit Ethernet PCIe EM (X7284A-Z) のホットプラグがサポートされていない (6793369)」 | あり |

Windows Server 2008 で Sun Quad Gigabit Ethernet PCIe EM (X7284A-Z) のホットプラグがサポートされていない (6793369)

Windows Server 2008 では、Sun Quad Gigabit Ethernet PCIe EM (X7284A-Z) のホットプラグがサポートされていません。

対処方法

PCIe EM を挿入してシステムを再起動すると、PCIe EM が認識されます。

ドキュメントの注意事項

この節では、Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールに関するドキュメントの注意事項を説明します。41 ページの「ドキュメントの最新の注意事項」を参照してください。

ドキュメントの最新の注意事項

次の表は、この節で取り扱う注意事項の一覧です。注意事項の詳細を確認するには、注意事項のタイトルをクリックします。

| ドキュメントの最新の注意事項 | 対処方法 |
|--|------|
| 41 ページの「ご使用の手引きに記載されている電源 LED の状態に関する情報が正しくない」 | なし |

ご使用の手引きに記載されている電源 LED の状態に関する情報が正しくない

『Sun Blade x6275 M2 サーバーモジュールご使用の手引き』には、ファームウェアの更新中に電源 LED の状態が変わると記載されていますが、この情報は正しくありません。

更新中 - ゆっくり点滅 (0.5 秒オン、0.5 秒オフ)

このリリースの時点では、ゆっくりした点滅は、ファームウェアの更新が実行されていないことを示します。更新中に OK/電源 LED の状態は変わりません。

